

## 【伊藤総領事メッセージ 2019 年 4 月】

毎年、3月8日は「国際女性デー」です。日本ではまだあまり知られていないようですが、女性が成し遂げてきた仕事や偉業を認め、女性の権利向上を提唱する日として、国連では1975年以降、毎年祝われてきました。しかし日本でも、安倍総理がウィメンミクスを推進し成果を上げてきており、さらに2014年以降は「女性の輝く社会」の実現を国際レベルでもめざし、「世界女性会議(World Assembly for Women) WAW!」を開催しています。本年は日本がG20の議長国であるところ、G20で女性の地位向上問題でのエンゲージメント・グループであるW20とWAW!が東京で同時開催されました。ノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイさんやミシェル・バチエレ国連人権高等弁務官をはじめとする蒼々たる女性が世界各地から集まり、今年の会合のグランド・テーマ「多様性のためのWAW!」の下で、様々な議論が活発に行われました。



連邦政府の内閣閣僚の50%が女性であるカナダでは、「国際女性デー」のみならず3月を「国際女性月間」として、女性に関する様々な行事が開催されました。当総領事館も、カナダの団体と共催で2つのイベントを行いました。

まず3月4日、カナダ各地から女性企業家や女性政治家、融資家等が約500名集まった「SheE0 サミット」に共催団体の一つとして加わり、日本のウィメンミクス及びWAW!/W20の開催についての広報を行いました。エリザベス・ドズウェル・オンタリオ州副総督(元UNEP事務局長)やカナダ連邦政府のメアリー・ング小規模ビジネス・輸出促進担当大臣も挨拶をされましたが、私も登壇し、「トロントで初めての日本の女性総領事です」と述べたところで、大喝采を浴びました。外務省が作成したSTEM分野での女性の活躍を紹介するビデオも紹介し、日本の女性も変わってきていることをアピールできたのではないかと思います。



第二には、国際女性デー当日である3月8日、トロント大学において、「女性リーダーへのメンタリング」と銘打ち、約400名の聴衆の前で約1時間の特別シンポジウムを



開催しました。ローズ・パッテン・トロント大学総長から基調講演を頂き、引き続きトロント大学で活躍されるケリー・ハナモフ副学長，レイチェル・シルヴィー同大学アジア研究所長，そして私の3名が，政治学部のシルビア・バシェフキン教授の司会

の下でラウンドテーブルを行ったのです。ここでも，私からはウィメノミクスへの取組と WAW!/G20 の広報をし，またシンポジウム開催前には，日本が途上国で女性の輝く社会を築くために行っている取組を紹介するビデオを繰り返し映しました。質疑応答の際には，私自身の個人的な経験も踏まえ，これから活躍するであろう女性達への応援のメッセージを送りました。シンポジウム終了後にはネットワーキングのためのレセプションも開催したところ，多くの参加者から声をかけられ，今回のシンポジウム及び日本の取組について好意的なコメントを頂けたことを大変うれしく思われました。



3月22日には，当地のトロント・スター紙に1面を買い上げ，このシンポジウムの様子や WAW!/W20 についての広報を行いました。このメッセージは，1週間はインターネット版にも掲載されたとのことです。

4月1日～3日には，カナダのアジア太平洋財団が初めて，女性だけによる経済ミッションを日本に派遣します。カナダ全国から集まる約40名の女性ビジネスリーダーや有識者達は，日本でのビジネスチャンスを探るとともに，日本の女性起業家・ビジネスリーダー達との関係構築，日本社会のハイテク産業，ケア・エコノミーの現場の視察，さらには京都女子大での講演会などを行う予定です。私もこのミッションに同行し，カナダに帰任後もこのミッションのフォローアップをして日加関係の強化に繋がっていきたいと考えています。



これらの活動を通じて、日本が国内の、そして世界の女性が輝くために様々な取組を行っているのだというメッセージが少しでもカナダの人々に届け、理解を深めていただくことを強く願っています。